



福島

「妖精の羽（フェアリー・フェザー）」 の名を持つ 世界最薄の絹織物

齋栄織物

福島県の北部、福島市に隣接する川俣町に位置する齋栄織物（福島県伊達郡川俣町鶴沢馬場、齋藤泰行社長、024・565・2331、<http://www.saij-orimono.com>）

は、大自然に恵まれた里山ロケーションの中、蔵造りの工場で先染絹織物を展開しているメーカーである。

絹は古代より日本人に愛され、化学繊維の普及が進む現代においても、肌触りや美しさから高級品として人気が高い。かつて福島県は養蚕や絹織物の製造が盛んで、なかでも川俣町は古くから絹の町



同社の技術はブライダル市場にも活かされている

として栄えてきた。川俣シルクは「東洋一のシルク」と称され、明治時代には重要な外貨獲得源として世界中に輸出されていた。

齋栄織物では、伝統的技術を大切にしながら「世界一薄く先染絹織物」を独自に開発し、世界の一流ファッションブランドから注目を集めている。まるで空気の衣をまとったように軽く、「天女の羽衣はこんな生地だったのでは」と思わせるような世界一薄くしなやかな「妖精の羽（フェアリー・フェザー）」には、髪の毛の1/6の細さの超極細絹糸が使われている。その細さゆえ、開発には4年の歳月がかかった。生産工程を支える原料メーカー、燃糸屋、染屋、仕上げ屋などの協力により、技術的な課題を解決して製品化することができたものだ。

この技術力の高さが認められ、同社は平成24年には、第4回ものづくり日本大賞で「内閣総理大臣賞」、平成24年度「グッドデザイン賞」を受賞した。グッドデザイン賞において素材として受賞することは非常に珍しい。

また、NHKの大河ドラマ「八重の桜」で主人公の新島八重が裏との結婚式で着用したウエディングドレスにも、同社の製品が採用された（9月第2週放送）。「これからも『人の手と人の和』の理念のもと、人の温もりの感じられる企業として歩んでいきます」と語る齋藤社長の眼差しは、広く世界を見つめている。